

2 学年 ()

① 薬学部で行われる研究とは？ 薬学部で学ぶことはどんなこと？

- 病気に対してどのような物質が「効果があるか」の研究
- 薬の組み合わせによる効果の違い等の研究

創薬科は特に新薬の開発をするために薬の特性などを学ぶ
 薬学科は薬学の一般的な知識に加え、薬剤師に必要な臨床的な知識や病院や調剤薬局での実習を行う。

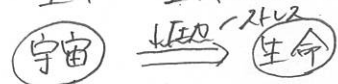
② 薬学部や薬学について疑問に思っていることなど、なんでも

- 薬学部の物理はどういうことを学ぶのか。

③ 講義ノート

病気の原因理解、標的発見 → 新しい薬をつくる

“生命” エントロピー増大の法則に抵抗



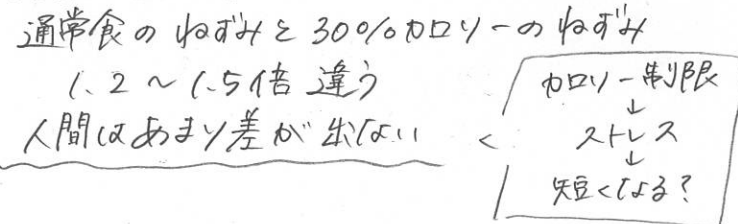
“生きる” → ストレスに 適応する = 適応 × → 疾患

ストレスは精神的ストレスだけではなく 例、紫外線、薬、ウイルス、遺伝子変異

ストレス = 生命の恒常性を乱す全ての内外環境変化

カプサイシン (熱) 受容体に作用 暑くなる 哺乳類には辛く感じる (子孫繁栄のため?)
 メントール (冷) 受容体に作用

老化 活性酸素が原因の一つ
 ↳ エネルギー消費する時に生じる = 活動(食事)しよければ寿命が延びる



抗酸化物質 老化を抑制
 ビタミン等

* ① と ②については講義の前には記入しておくようにしましょう。

講義ノート

活性酸素 → 感知 → レドックス応答性シグナル分子 → 生理応答
酸化還元

シグナル伝達 = 情報伝達

(イノレー) のように伝達 ストレス防御応答を誘導
 ↳ 破壊すると疾患

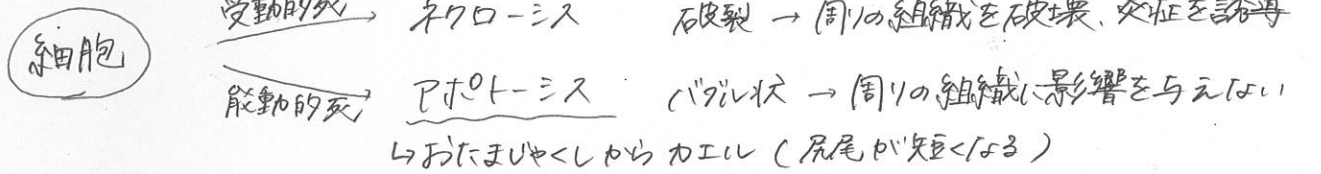
リン酸 = パトン
 シグナル伝達 = ソー

○ がん

- ・ 細胞死を誘導するシグナル分子の機能欠失
- ・ 増殖刺激に反応するシグナル分子の異常

{ がんになりそうなのは細胞は自分で死ぬかそれか行われたいとがんを発症 }

自己免疫疾患、神経変性疾患、糖尿病 → アポトーシスが行われたい
 ↳ 自分を攻撃して
 ソーマ



A2E1 阻害、活性酸素の産生を抑制
 → 過剰な炎症や自己免疫疾患を治療できる
 ストレス応答を調節 → 疾患の治療

④ 感想、上記の質問・疑問への答え

以前から自己免疫疾患に興味があったので、今回の講義を聞いて自己免疫疾患の治療について少し知れたので聞いていてとても面白かったです。
 活動量や食事量を減らすと寿命が延びるという話もとても興味深かったです。

* このノートは次週の水曜日までに 本田 へ提出してください。
 後日、講義を担当された先生に提出いたします。